# 本部だより

●第 30 号

マーシャル方面遺族会
http://mibfa1926.com
携帯サイト
●環礁・本部だより第 30 号●発行日：平成 26 年 8 月 1 日●発行人：黒川誠
●マーシャル方面遺族会本部：〒 142-0051　東京都品川区平塚 3-4-17
●電話 03-3783-8382 ● FAX03-6410-4420 ●振替番号 00100-0-93487

●ルオット島にての大東亜戦二周年記念日集合写真

大東亜戦二周年記念日寫
玉砕ノ命ハ下ツタ
我亡キ後ハ戈ヲ、寛ノ美食ニ月ニ努メ
花丹ニ孝養ヲ盡シ我ガ本土ヲ護ラレタシ
武次

## 平成26年4月5日 慰霊祭 総会 直会

黒川 誠（会長）

今年の慰霊祭は早朝より好天に恵まれて、気遣われていた天候への不安もなくなりました。2月の気温では4月初旬が満開であろうと考えられた靖国の桜は、3月中旬頃より急激に気温が上昇して慰霊祭当日は満開を過ぎて散り始め、折か

慰霊祭当日の靖国神社境内風景（受付より撮影）

らの春一番に近い強風に煽られて桜吹雪の中で予定通り斎行されました。

会員は受付を済ませて参集殿に集まり、定刻前に行事進行の説明が高林幹事よりあり、神官の先導で手水を使い、修祓を受けて昇殿しました。神官の祝詞奏上、黒川会長の祭文奏上、代表者による玉串奉奠と参拝を終わりました。

退下後、例年通り靖国会館前で全員揃って記念写真を撮りました。12ページの写真でお分かりのようにこれまでないピーカン状態で、皆さんのお顔がくっきりと映っています。

## 慰霊祭出席者名簿

敬称略　◎印は玉串奉奠者

**北海道**　◎伊藤義勝　**青森県**　◎須藤明子　須藤晴彦　**岩手県**　◎佐藤享三　**宮城県**　安藤としえ　佐藤勉　**栃木県**　岡村勝利　菊池彦亘　**埼玉県**　吉原利美　小松順子　西勝章夫　鈴木裕子　小田原利子　小野博孝　小野トキ子　◎佐藤知子　真鍋公代　天野好子　千田啓子　大井和子　髙林芳夫　**東京都**　◎黒川誠　◎井上賀雄　井上庸子　米林義昭　米林美智子　内海淑子　居戸和由貴　高橋愛子　鈴木千春　山田二美　星野綾子　石川勲　番場信子　中村秀夫　中村順子　間々田征史　間々田邦子　石塚章吾　石塚文子　若狭健一　小寺照子　山口良二　草場寛　浜田つき子　**神奈川県**　安威和子　鈴木友季子　鈴木進　服部政久　糀谷友孝　佐藤隆一　佐藤章子　佐藤加久也　松江正子　**新潟県**　山田裕史　山田摩希子　**長野県**　宮下勤子　**岐阜県**　◎吉田正明　梶尾洋平　**愛知県**　浜田芳枝　目黒一誠　目黒知子　**香川県**　石川正興　石川妙子　金森佳子　金森越哉　松原敦子　**愛媛県**　馬場清　**福岡県**　平田郁子　石松順子　**沖縄県**　宮城勇　宮城邦子　**当日参加**　小田原靖　小田原巧磨　小田原明璃　小田原豊　清水雅尚　星野翔子　小寺照子　若狭幸子　堀尾晃平　松江孝枝　松江理菜子　葛西勉

## 総会

今年は何事もスムーズに運び、正午前には会員、会友の皆さんが「靖国会館・

井上賀雄夫妻　　直会風景

田安の間」にお集まりになって、定刻前に総会が始まりました。

司会の草場幹事の発声により、山口幹事の議長選出を全員賛成の拍手にて年に一度の定期総会が始まりました。

**式次第**

一　開会の辞
二　会長挨拶
三　会計報告
四　会計監査報告
　（内海淑子監査役）
五　国内慰霊祭行事の発表
六　現地慰霊巡拝の説明と発表
七　その他・質疑応答

●会計報告　受付で配布した報告書の通りであることが報告され、内海監査役からは総勘定元帳をはじめ収支資料を監査照合した結果、相違ないことが報告されました。

●現地慰霊行事　本来ならば本年11月に行われる予定であった現地慰霊巡拝ですが、昨年10月末日の希望者がツアー規定人数に満たず、高林幹事より中止が発表されました。

●国内慰霊行事
◇5月26日　厚生労働省主催・千鳥ヶ淵戦没者墓苑拝礼式
◇7月15日　当会の永代神楽祭（命日祭）
◇8月15日　全国戦没者追悼式・東京都戦没者追悼式
◇10月下旬
沖縄戦没者慰霊祭

●遊就館にてマーシャル方面遺族会の写真展開催（9月・10月）

本年は、先の大戦でクェゼリン・ルオット他、祖国防衛のため若い命を捧げたご英霊の70周年になります。遊就館では中部太平洋方面の戦域で戦没されたご英霊の遺訓を称えて、写真展を開くことを打診されました。

本会が始まって以来の写真展開催は、千載一遇のチャンスに思われます。戦後70年も経過すると、マーシャル諸島やギルバート諸島を知らない世代が多くなりました。

私達の肉親がその島で祖国防衛のために尊い命を散らした事実を少しでも多くの人達に知って貰える絶好のチャンスであると思います。企画運営は本会会員の

ジャーナリスト、笹幸恵さんと鈴木千春さんに協力を仰ぐこととなりました。関連記事は10ページをご覧ください。

## 直会

総会会場がそのまま直会会場に設定されました。同席の最年長である黒川会長の乾杯の音頭で始まり、それぞれ寛いで美味しい食事をしながら懇談に入りました。高林幹事の要請で次々と自己紹介や感想が述べられました。沖縄から出席された宮城ご夫妻は、「東京の桜を初めて観ることが出来て感激した」という言葉を聞いて成程日本の桜は日本人の心であることを想いました。

大きな体と大きな声で毎年直会会場を和ませて戴いた山口県の櫛崎馨さんが今年2月22日に亡くなられました。非常に残念です。

また、本誌28号の表紙を飾った福島の富田ミツさんは、昨年12月5日に亡くなっております。物故の報は毎年多くなっていますが、継承する遺児はいないのが現状です。

故櫛崎馨さん（平成14年撮影）

黒川会長は、佐藤前会長の後を引き継いで15年になります。今年8月で95歳になられ、歴代会長では最年長です。

「今期一杯（平成27年総会まで）は務めますが、来期は辞任致します」と挨拶されましたが、とてもお元気です。

午後3時、今年の直会は無事終了致しました。来年も元気でお会いしましょう。

## 平成26年度　厚生労働省主催
## 慰霊巡拝参加申込要領

●**実施地区名**　マーシャル諸島（一斑）

●**実施予定時期**　3月7日（土）～3月15日の9日間

●**申し込み締め切り日**　10月31日（金）

慰霊巡拝は国が実施し、参加者推薦は国が各都道府県に依頼しているものです。

●**参加基準**　遺族の範囲　慰霊巡拝を行う戦域（マーシャル諸島）における戦没者の遺族（配偶者、父母、子、兄弟姉妹）。

●**遺族の条件**　①健康状態が良好であること②基本的に過去5年以内に参加していないこと③年齢は原則として80歳以下であること。

●**旅費**　概ね32万円の$\frac{1}{3}$を国が補助。

●**申込**　本会会員が希望する場合は、本部に申込んで戴ければ必要書類を直接申込者に郵送する手筈を整えています。都民である場合は申請書は都より受取ることとなります。

## 平成26年度
## 千鳥ヶ淵戦没者墓苑拝礼式

星野綾子（東京）

遺骨収容などにより海外から持ち帰られた戦没者の遺骨の内、遺族に引き渡すことの出来ない遺骨を東京都千代田区内にある「千鳥ヶ淵戦没者墓苑」に納骨し、併せてこの墓苑に納められている遺骨に対して拝礼を行う「千鳥ヶ淵戦没者墓苑

拝礼式」を、厚生労働省主催により毎年5月下旬に、皇族のご臨席のもとに挙行しているものです。

今年は5月26日（月）午後零時30分、時折の強風のもとに行われました。マーシャル諸島など各地の遺骨183柱が新たに納骨され、同墓苑の遺骨は36万96柱となったと報告されました。

今回は秋篠宮家の長女眞子さまが初めて出席。安倍晋三首相、与野党党首も参列されました。

六角堂を背に

右から内海淑子、星野綾子、福永弥生、黒川会長の皆さん

# 吉田綾さん百寿

吉田正明さん（岐阜県）のご母堂、吉田綾さん（大正2年10月29日生）は、めでたく百寿を迎えられました。

陸軍大尉吉田壹二命と昭和11年5月に故郷岐阜県垂井町で結婚式を挙げ満州に。昂々渓→満州里→扎蘭屯（ジャラントン）へと。間もなく大東亜戦争が始まり、吉田中尉（当時）は昭和18年12月7日午前3時、扎蘭屯駅を出発、南方に転進。昭和19年2月6日クェゼリン島にて部隊全員玉砕。

綾さんは昭和18年12月10日午前8時に扎蘭屯を離れ、故郷の母元に。そこで「たばこ」などの小売店を20年営み息子を教育。その後、茶の湯を嗜み悠悠自適の生活。3年前より体力と記憶力が衰え特養に入所、日々元気に過ごされている。本会には昭和39年入会、平成15年に正明さんにバトンタッチ。

吉田綾さん

あなたが百歳の長寿を達成されたことは誠に慶賀にたえません
ご長寿をことほぐこの日に当たりこの記念品を贈りこれを祝します

平成二十六年八月一日

内閣総理大臣　安倍晋三

表彰状

吉田　綾　殿

あなたは永年にわたり遺族会の組織の充実強化と会全運営に寄与されその功績はまことに大であります　ここに一層のご長寿を祈念し表彰いたします

平成二十五年十月二十五日

一般財団法人岐阜県遺族会
会長　山田　大

**第二次世界大戦 私の戦争過去帳**

**連載②**

# 未だに多くの戦友が眠る飢餓の孤島

## マーシャル群島 ウオッゼ島

■筆者
**吉田誠さん**
(平成24年7月2日91歳で逝去)

●大井和子さん（埼玉県）より本誌28号に掲載した鈴木千春さんの質問に答えて、吉田誠さんの手書き手記が届けられました。その貴重な手記を連載で発表させて戴きます。厳しい戦闘の舞台となったウオッゼ島です。手記中の残酷な場面は本誌の編集方針から割愛し、全文の前後を入れ替えて読みやすくしました。

総てが忘れないうちに克明に。
戦友は多く眠る。
戦争は勇ましい反面、
悲惨である。忠実に記す。

図①

第一砲台北約100mのタコツボから見たB-24（コンソリディトB24陸軍機）による 編隊爆撃　（筆者画）

### B24による本格的編隊爆撃

昭和18年も終わり頃だったと思う。探知機による空襲警報あり（多分午後）。上空には2機の大型機が高々度でクロスする飛行で海上に飛び去って行った。

総員集合、警備隊広場に吉見第六十四警備隊司令（海軍大佐）より訓辞があり。当地は直ちに全員戦闘配置につくことになった。私の直感、あの2機は写真撮影のための偵察飛行であると。

約一週間後、サイレンが配置つけを報じたときは、本島東北地区から11機の編隊が左旋回しつつ、接近して来た。私は南東部第一砲台（12・7cm高角砲）から100m程度の海岸のタコツボ（③図）で、とにかく何時ものことながらサイレン即敵機と言って過言でなし。高射砲陣地は第一、第二、第三砲台から一斉に打ち出され、弾幕は編隊のところで多く爆発していたが一機も墜落せず、堂々と編隊を組んで南に去って行った。

滑走路、兵舎、食料庫他は総て直撃を受け、特に保管してあったカルピス20本箱詰め（最後の戦闘用）全部は無となってしまった。

爆撃により多くの戦死者と負傷者が出てしまった。タコツボも爆風と振動で砂が大分落ちてしまった。戦死者の収容が大変であった。

### ギルバート諸島タラワ、マキンの玉砕（現キリバス共和国）

昭和18年10月頃から米軍はガルバニック作戦と称し、ギルバート諸島に対する猛攻が連日続けられ、第六十二警備隊約3、000名は玉砕するに至った。

この作戦では米軍も多大の被害を受け、指揮官少将以下約6、000名の被害があった。この頃から米軍は飛び石作戦を開始。マーシャル群島各地に対し連日に亘り昼夜を問わずの爆撃が続行された。

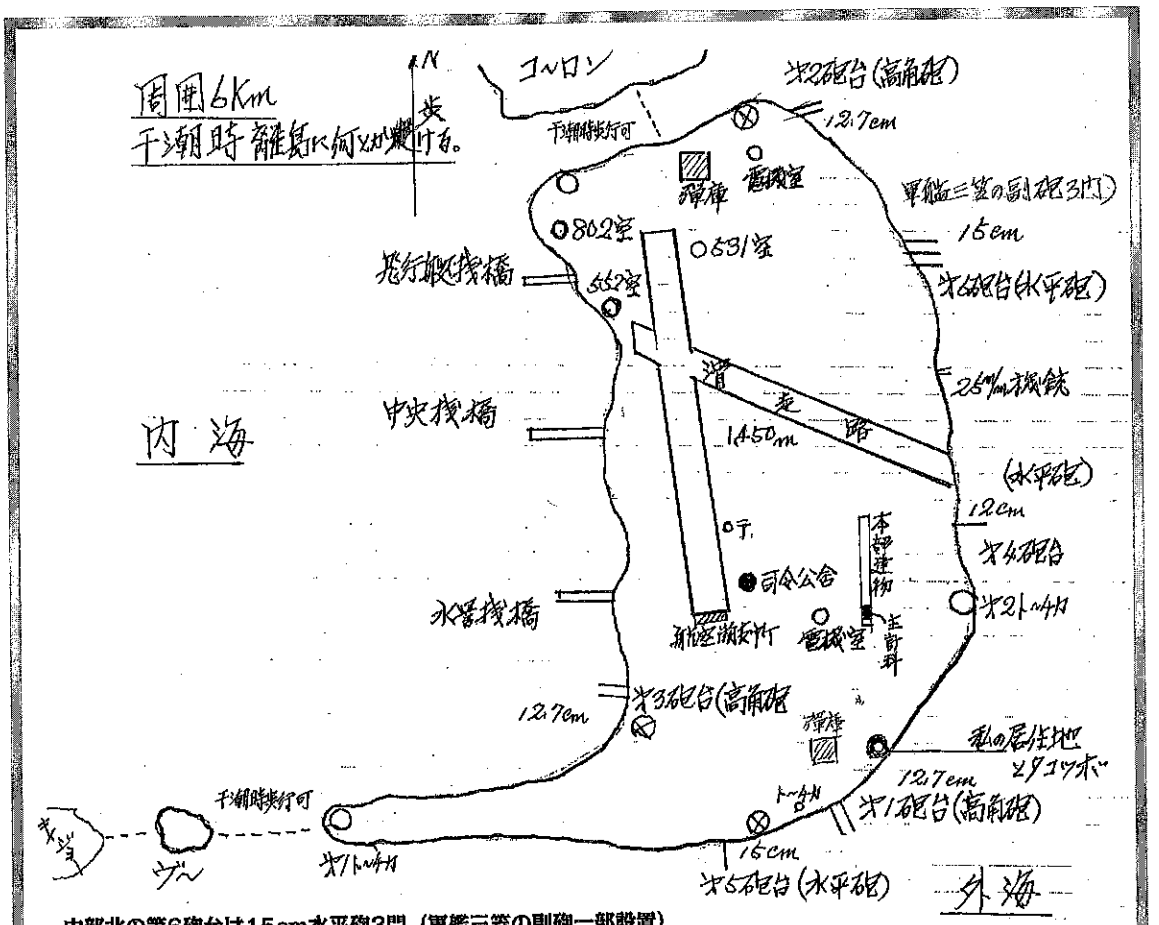
そのために当六十四警備隊でも多くの戦死傷者が増加するに至った。当地に対しても艦砲射撃が始まった。日時不明ある陸戦隊員が巡洋艦らしき2隻が航行しているとのことで本部に連絡が入り、その夜甲配備発令となる。甲配備とは、敵

上陸の算あり各隊は陣地に待機での命令であり、サイレンが約5分間。翌早朝部下（木下、榛沢、米長）を従えて第一トーチカに行った。

主計科も弾薬が必要であったからである。第一トーチカには吉見司令が夏服（第一種軍装）で居られた。小銃弾（一箱500発分）を引き取ったとき、司令曰く、世界最高の訓練を受けた陸戦隊ではあるが、この物量攻撃にはどうにもならんと言われたのを今でも忘れない。

そのとき、大きな爆発音があり、トーチカから扉を開けて外部を見たら、司令乗用車（トヨダ）が一台あったが形も姿もなくなっていた。その後、爆薬は持てずに引きずって第一砲台横の主計科陣地に戻ったが、多くの戦死体が転がっていた。それにしても米艦隊の砲撃は、その後の調査で本島、離島に対し一日約2、000発とのことであった。

米軍の砲撃は常に目標を外れ、実に多くの不発弾があった。島を通り越して内海で大きな水柱を上げていた。何と言っても量の問題であると、当時痛感したものである。




中部北の第6砲台は15cm水平砲3門（軍艦三笠の副砲一部設置）刻印に明治28年製とあった。敵大型艦は3隻で、巡洋艦、駆逐艦等が多くなり艦砲射撃が始まった。第6砲台長大塚特務少尉以下、80名全員戦死と報告があった。砲台長は笑顔を絶やさない方で、私も何かとお世話になった。遺体はなく、軍刀のみが発見された。

**図②**
**第6砲台砲台長以下全員名誉ある戦死**

## 食と病気

当時の主食は、米一日720gと規定であったが、やがて280gとなり、最終はオチョコ一杯となる。11月9日以後は総てがゼロとなってしまった。各地が海水を入れたペンペン草等の粥食となる。そのときの私は、経理学校に行っていたら等とタコツボで夜になると考えたりしたが、食料品は総てが無となり、乾燥野菜（タマネギ、ホウレン草その他）、缶詰（肉、魚など）、乾燥味噌、醤油等は全部島内から姿を消していた。

それにしても第四根本部（トラック島）からは連日滑走路を修理確保せよとの電文が通信室に来信していた。

食無くして戦えるかと思った程だ。島にある総ての雑草、ネズミ、赤黒のトカゲ、ヤシガニ等は食べ尽くしており、倉庫（敵上陸時に備えての倉庫の少量の乾パン、砂糖、コンペイト）には多く油虫がいて、それを食した。生きるためには各々がそうして生きた。

武士は喰わねど高楊枝の言葉もあるが、もういい加減しろと誰もが思ったことだろう。風呂もドラム缶の中に入ったが、銃弾で使用不可、遂に一年半に亘り入浴しなかったが、意外と元気だった。

この頃になると人間は本来の動物と化し、強い者が生きられる状態となった。ある工作（応召大尉・静岡県出身）のように発電用メチルアルコールを飲んで目が見えなくなって抜刀して自ら命を絶つという事もあった。

やがてあってはならない事が次から次に発生した。まず、逃亡兵の続出である。夜間干潮時を利用して北側のコーロン島に渡り、やっとの事でオリメーヂ島からエネジャバイ島に、そこから米軍に投降し、舟艇に乗って米軍基地に。

途中歩行も出来ずに餓死した兵士も多かったし、発見されて銃で撃たれて海中に流された者もあった。当時米軍は夜間飛行機でエネジャバイ島に逃亡するようにビラをまいていた。

タコツボでの生き残りの合言葉は、ご飯と味噌汁、井戸の水（当地の水は半塩水）、お汁粉、ぼた餅等で、話は決まって同じものであった。

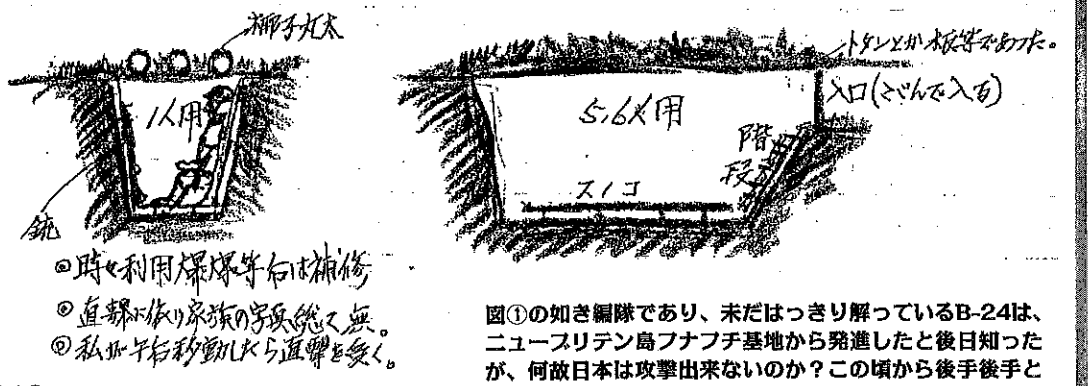
当地における病気は主にデング熱であった。食糧不足で体力も弱っていたので完治するのに時間を要した。医務科においても薬が不足していたせいもある。

アミーバー赤痢も流行した。特に下痢がひどくて、用便はタコツボから出て浜で行った。時には頭上に敵機が、洋上には哨戒中の艦も見られたが、こうなってしまうと人間意外に落ち着いていた。

魚は名前を知らないものは食べなかった。ボラ、アジを食べると皆必ずジンマシンになってしまった。原住民が言っていたように採った魚にハエが止まれば大丈夫とは知っていたが、そんな余裕は最早なかった。

## タコツボからタコツボにとヤドカリ生活

ウオッゼでの防空壕もコンクリート製もあれば、多かったのは椰子の木丸太にトタンを乗せてから砂を乗せると簡単な防空壕が出来た。収容人員は3、4名から航空隊のように、鉄筋コンクリートを利用しての大物もあり、20名程度が入れ




図③
タコツボから見たB-24の編隊爆撃

図①の如き編隊であり、未だはっきり解っているB-24は、ニューブリテン島ブナプチ基地から発進したと後日知ったが、何故日本は攻撃出来ないのか？この頃から後手後手となって来た。それにしても編隊の一機は煙の尾を引きながら飛び去った。爆弾は総て滑走路主体で正確であった。

たものもあったが、直撃を受けて531空司令以下、高官全員が戦死している。航空隊大型防空壕は、2階建て鉄筋で、本部の地下に設置されていた。

タコツボでの一人暮らしは、やはり丸太2、3本に合羽（雨合羽）かトタンを乗せていた。南十字星を眺めながら泣いた事も何度あったか。砲爆撃の都度、振動で砂が崩れて補給をした。

## クェゼリン、ルオットの玉砕

本島が砲爆撃を受けて多分に、三日後、東方洋上（外海）に多くの輸送船団が西方に進んでいた。この分ではトートン水道から進入して来ると判断、甲配備となる。私は常に第一砲台付近であり、他地区は知るべくもなし。輸送船を見て海岸で泣いている年配の応召された陸戦隊員がいた。我々未婚者は朝方に上陸して来る米兵を一人でも多く殺して自殺すれば良いと意外にも落ち着いている。

翌日、米軍はクェゼリンとルオットに行き、調査によれば通過後二日後に約2、000名は玉砕した。戦後、米国防省は、当初ウォッゼに上陸すべく行動作戦したが、種々の事情でクェゼリンに変更した。戦争終了後のD，D駆逐艦で上陸した米連絡将校によると、第一目標はウォッゼであったようで、対空砲台および海岸線の対戦車防壁が強固であり、米軍被害の件で変更したと話していた。

戦車防壁はコンクリートと石等を混合して本島6キロ周囲に完成。以前内地から受刑者が多く来島し完成されたと聞いている。

クェゼリンでは、玉砕当時内地から訪れていた音羽侯爵他多数が殉死した。

つづく

図④

# 遊就館「写真展」のお知らせ

笹 幸恵

靖国神社遊就館にて、マーシャル方面遺族会主催の写真展を開催することになりました。マーシャル群島における戦史および戦没者の方々の肖像、また当会の活動内容などを展示する予定です。

展示は館内一階の通路を利用したスペースで行ないますが、これまで戦友会や画家、写真家などが展示を行なってきました。遊就館は一日数千名の拝観者があり、なおかつ今回は秋季例大祭の時期が重なっています。

そのため多くの方にご覧いただくことができ、当会の活動をPRするまたとない機会になると思います。さらに会員の皆様には、あらためて当会の全容をご理解いただくことができるのではないかと考えております。

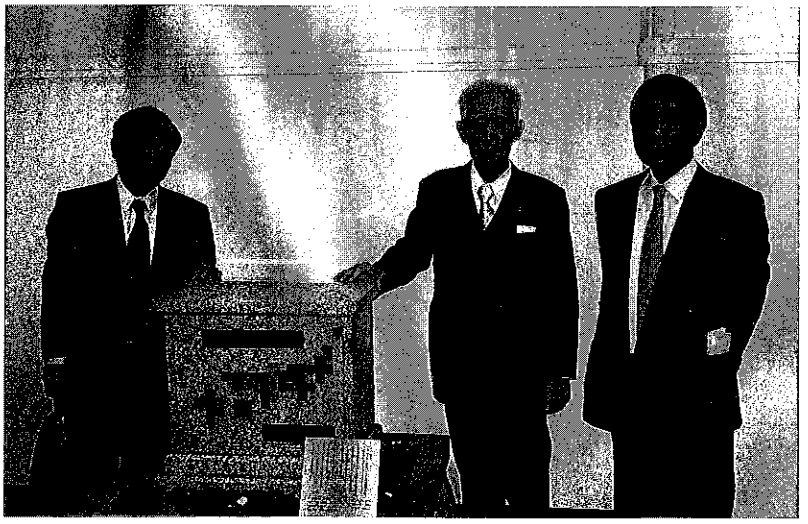
詳細は下記のとおりです。

【開催期間】
平成26年9月1日～10月26日

【展示内容（案）】
・戦友たちの姿（遺族の思い出と共に）
・マーシャル方面遺族会の活動内容
・マーシャル群島の戦闘および慰霊巡拝の記録等

写真展会場（下見時の風景）

写真展会場のすぐ側にある「展示室19」にある本会慰霊碑のミニチュア



写真左から山口良二幹事、黒川会長、髙林芳夫幹事

展示期間中は、遊就館内にて特別展「大東亜戦争七十年展Ⅲ」も開催されており、中部太平洋方面の戦闘について取り上げられています。10月19日（日）には記念講演会が行われます。

会員の皆様には、この機会にぜひ足をお運びいただけたらと思っております。

## 新役員紹介
# 井上賀雄さん

井上賀雄（いのうえ・よしお）さんは本会発足時（昭和38年）幹事として奉仕されました。初代会長林茂清氏、2代会長村上義一氏、3代会長浮田信家氏、4代会長佐藤宗丕氏にそれぞれ幹事や副会長として奉仕されてこられました。

この度、黒川会長の要請（指名）を受けて再び会の幹事としてご奉仕いただく事となりました。　高林芳夫

◇お顔は3ページと次ページ（向かって前列右から3人目）でご確認ください。

### 本会HPの観方

**●パソコンで観る**　下図のように検索窓に「MIBFA」と入れて「検索」ボタンをクリックし「マーシャル方面遺族会オフシャルウェブサイト」を選んでください。

**●携帯、スマホ、タブレットで観る**　表紙にある携帯サイト（QRコード）を「読取カメラ」で撮影して反応後、示されたURLをタップしてください。音声検索も便利です。「マーシャル方面遺族会」としゃべるとつながります。

MIBFA　検索
http://mibfa1926.com

# 寄付者芳名

敬称略

**北海道**　伊藤義勝　**青森県**　下川与三郎　須藤明子　**岩手県**　佐藤亨三　**宮城県**　安藤としえ　佐藤勉　**秋田県**　大宮ツタ　**山形県**　長岡正昭　**福島県**　根本さとみ　古市光男　**茨城県**　神永栄子　鈴木やよひ　北条晃　**栃木県**　菊池彦亘　猪瀬康夫　**埼玉県**　小野博隆　小室洋子　橋本強　諸橋恒一　千田恒子　冨川艶子　鈴木裕子　天野好子　高林芳夫　**千葉県**　広原實　相川孝夫　泉水堯恵　腰川妙子　宮崎實　**東京都**　黒川誠　井上賀雄　田中猛　内海静枝　高橋愛子　山田二美　鈴木千春　石川勲　中村順子　番場信子　間々田征史　星野綾子　畫間志津子　毛塚通　草場寛　浜田つき子　高坂和靖　山口良二　西田寿子　**神奈川県**　佐藤登志　岡野智津子　鈴木友季子　石渡綾子　熊沢静子　**新潟県**　石丸進　山田昭雄　**富山県**　池田淑子　広島富子　**石川県**　木村久子　**山梨県**　黒川正文　**長野県**　中村純久　**岐阜県**　吉田正明　堀尾洋平　**静岡県**　大畑幸夫　服部くにえ　野島昭二　**愛知県**　浜田芳枝　**京都府**　東地井義則　**和歌山県**　福井敬真　**鳥取県**　井上照美　**広島県**　藤本正　瀬戸隆子　奥井禮子　浦手清司　**山口県**　吉永峯生　**香川県**　石川正興　冨田佳代子　**愛媛県**　馬場清　山村一郎　三好エミ子　長岡俊夫　渡部守　大塚喜久雄　**高知県**　野島鶴美　橋本勝彦　徳原萩子　柳村摩耶子　橋本勝彦　**福岡県**　平田郁子　吉松貞子　**佐賀県**　金子茂　**長崎県**　山下タエ　**熊本県**　土田利子　右山定　植川二男　**鹿児島県**　松野下さつえ　野平市子　**沖縄県**　宮城勇　**会友**　郡義典

## 訃報

●平成25年

石本利親さん（3月）

宮城幸子さん（9月・97歳）

近藤マスエさん（11月）

冨田ミツさん（12月5日・102歳）

●平成26年

櫛崎馨さん（2月22日・75歳）

ご冥福をお祈り致します。

# 第52回マーシャル方面遺族会慰霊祭　平成26年4月5日　於　靖国神社

撮影　ツカモト写真館(靖国神社指定)